

二〇二二年九月三日

じつくりと根菜を煮る秋  
暮れ残る空に秋刀魚を焼く煙  
一山を揺るがす如く蝉時雨  
色草を籬としたる辻地蔵  
警報のひつきりなしや秋  
磯鳴の影絵めきたる夕の浜

二〇二二年九月二日

警官も板前もゐる夜学の灯  
秋風に里恋ひ心ふつと  
音立てて水飲む猫の舌涼し  
漕ぎ出でしひるぎの森は星月夜  
友の忌に贈る秋薔薇剪りにけり

二〇二二年九月一日

早暁の畦道ゆけば虫涼し  
ああ言へばこう言ふ夫や秋灯下  
身に入むや畑の真中に五輪塔  
幅跳びの義足飛び立つ秋の空  
風鈴の個性それぞれ風の音  
秋涼し息吹き返す鉢もあり

二〇二二年八月三日

江ノ電の過ぎて大揺れ秋桜  
聞き上手忘れ上手や生身魂  
翔びたてば扇の形稲雀  
医薬門くぐる一步に萩浄土

むべ 凡士 こそす 素秀 明日香 智恵子  
凡士 菜々 菜々 菜々 菜々 菜々  
もとお みたお みたお みたお みたお みたお  
あひる 明日香 明日香 明日香 明日香 明日香  
はく子 ぼんこ ぼんこ ぼんこ ぼんこ ぼんこ  
あひる たか子 明日香 明日香 明日香 明日香  
智恵子 明日香 明日香 明日香 明日香 明日香  
素秀 素秀 素秀 素秀 素秀 素秀  
宏虎 宏虎 宏虎 宏虎 宏虎 宏虎

二〇二二年八月三〇日

山寺の笕あふるる清水かな  
鉦叩小さき森なすプラント  
病窓に切り取られたる秋の空  
満ち潮の足跡浚ふ秋の浜  
脈拍の乱れを数ふ夜長かな

二〇二二年八月二九日

赤とんぼ群る休耕田の空  
格闘のごとスライスす新生姜  
紙屑のごとく掃かるる木槿かな  
風抜ける土間の片隅ちちる鳴く

二〇二二年八月二八日

押し入れに庭師の免許生身魂  
泥洗ふだけで香るや新生姜  
肩寄せて浦に十戸の島の秋  
絵日記に三日連続赤とんぼ  
蝸や石で竈を組む河原  
手水舎は桧造りや水澄める

毎日句会みのる選・二〇二二年九月五日

なつき 智恵子 智恵子 智恵子 智恵子 智恵子  
せいじ あひる うつぎ 智恵子 智恵子 智恵子  
なつき あひる 凡士 素秀 豊実 ぼんこ  
あひる 凡士 素秀 豊実 ぼんこ ぼんこ